

□ ■ 支部報告 □ ■

関東支部見学記

関東支部恒例の秋の見学会が昭和 58 年 10 月 21~22 日に催された。支部長以下 28 名の参加者を得て新宿から一路小田原に向かう。約 1 時間半後に明治製菓(株)小田原工場に着き、紙よりも薄いシートを 100 層以上も折りたたんで作ったフレンチパイの製造工程を見学する。コンベアに載ってゆっくり運ばれ、混合、練り、成形(シートの折りたたみ、型抜き)、焼結(トンネルオープンによる焼き上げ、冷却)、包装と順次お馴染みの工程が進む。機械設備に当たって、異種産業分野の工場、特にセラミックス工場の見学が大いに参考になったとのこ

と。工程を見つめるセラミストの目が光る。新製品マインクネッケのお土産を手に同社を辞し、ライオン(株)小田原工場に向かう。同社で昼食を御馳走になった後、練り歯磨き、歯ブラシ、液体洗剤の製造工程を見学する。ここもかなりオートメーション化が進み、現場は女子従業員が主力の様子。女子でも担当機械の簡単な修理は自分でできるように再教育を進めているとのこと。他の産業分野にも波及、普及する日も近いか?

歯磨きセットをお土産に同社を辞し、箱根山麓に位置して、フィルム製造に欠かせない豊かな水と溢みきった空気の南足柄市に向かう。富士フィルム足柄工場では 1 日に 6 万 t の水が、その内半分はチリやホコリの洗浄に使われるとのこと。フィルムは、暗闇の中で、数 μm の厚さで乳剤をフィルムベースの上

に 10 層以上も塗布して作られるという。暗所での作業のため、見学できなかったのが残念。主として包装以降の工程を見学する。同社は従業員 5500 名の内、研究部門は何と 2000 名に及ぶという。

箱根簡易保養センターに宿泊後、明けて 22 日は世界救世教の MOR 美術館(熱海)に立ち寄り、2 時間半かけて、心ゆくばかり美術品を鑑賞。建築物そのものも、また眼下に見下ろす展望も素晴らしい。いずれまた機会をみて訪れてみたいと思いながら帰路につく。途中、真鶴ケープパレスで昼食をとり、しばらく付近を散策、午後 3 時再び帰路につく。有意義で楽しい 2 日間であった。

(内田芳郎)



MOR 美術館にて